

アトサヌプリの火山活動解説資料（令和3年8月）

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動は静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1-①～②、図2～8）

監視カメラによる観測では、F1噴気孔群及びF2噴気孔群の噴気の高さは火口上概ね200m以下で、噴気活動は低調な状態です。

23日から26日にかけて実施した現地調査では、前回の観測（2020年8月）と比べて、アトサヌプリ溶岩ドームに点在する噴気孔や熊落し火口の状況に変化はなく、赤外線映像装置による観測でも地熱域の状況に特段の変化はありませんでした。

・地震や微動の発生状況（図1-③）

火山性地震は少なく、地震活動は低調な状態です。
火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図9）

GNSS連続観測では、アトサヌプリカルデラを囲む基線で短縮の変化が引き続き認められています。

この火山活動解説資料は気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』を使用しています。

次回の火山活動解説資料（令和3年9月分）は令和3年10月8日に発表する予定です。

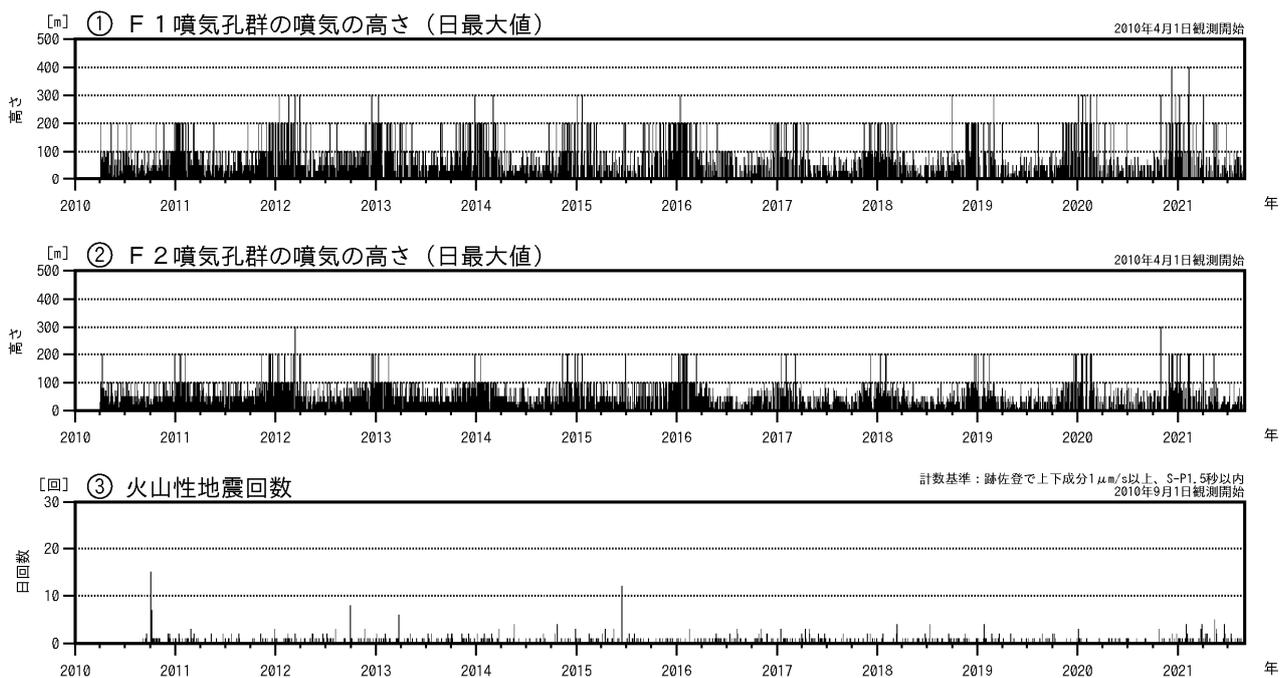


図1 アトサヌプリ 火山活動経過図（2010年4月～2021年8月）



図2 アトサヌプリ 北東側から見たF 1 噴気孔群及びF 2 噴気孔群の状況
（北東山麓監視カメラによる）

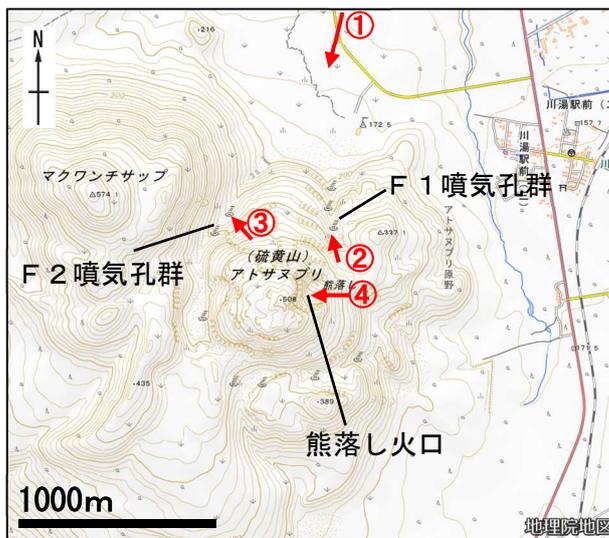


図3 アトサヌプリ 周辺図と写真及び赤外熱映像の撮影方向（矢印）



図4 アトサヌプリ 北側から見たF 1 噴気孔群及びF 2 噴気孔群の状況（図3の①から撮影）

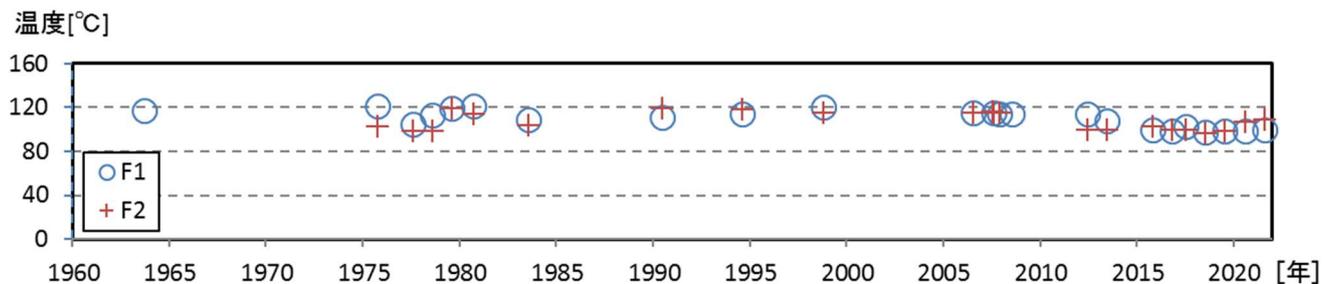


図5 アトサヌプリ 熱電対温度計によるF 1・F 2 噴気孔群の最高温度（1963年～2021年）
・ F 1 噴気孔群及びF 2 噴気孔群の噴気温度は100°C前後で推移しています。

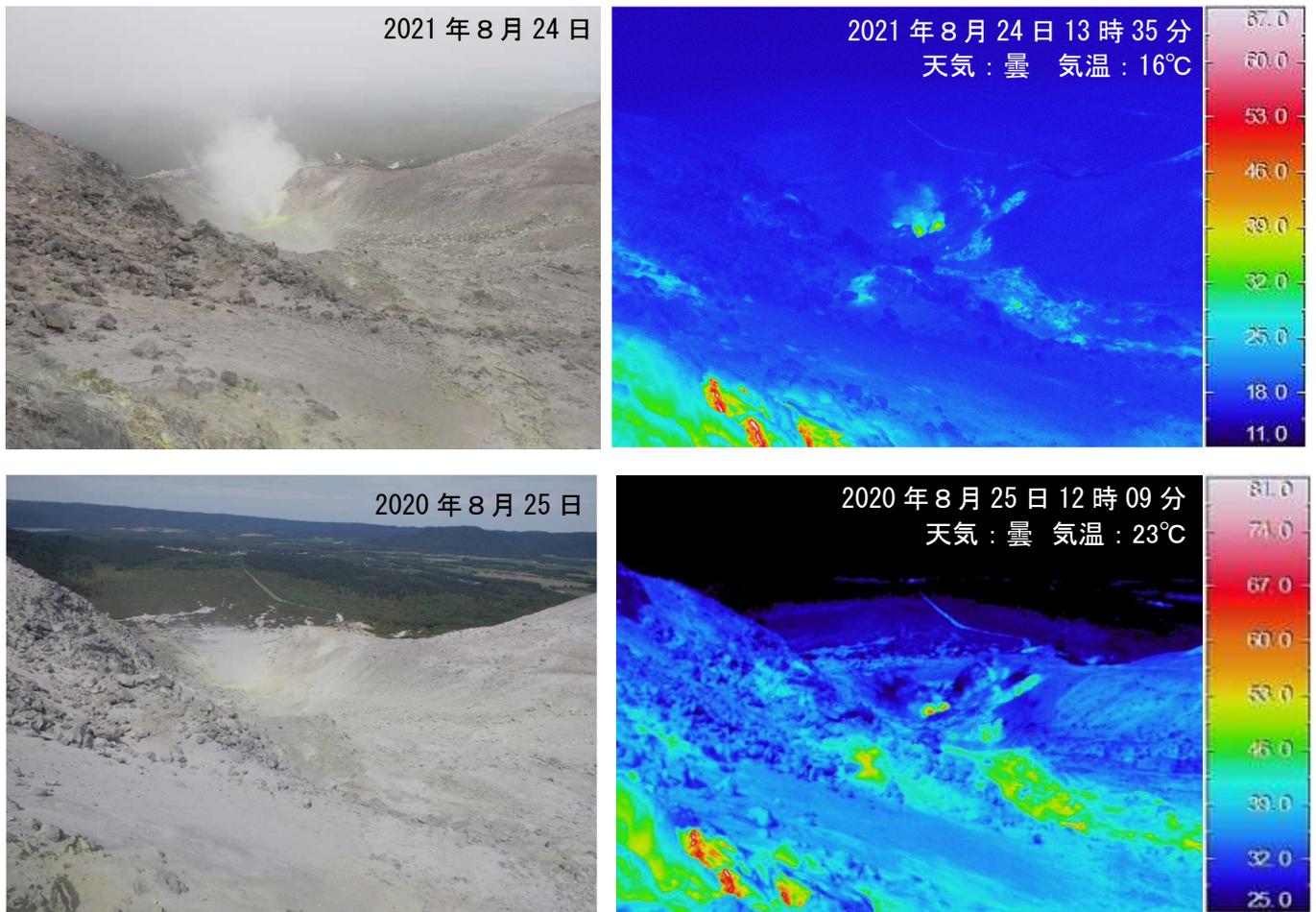


図6 アトサヌプリ 赤外熱映像装置によるF1噴気孔群の地表面温度分布
(図3の②から撮影)

- ・前回の観測（2020年8月）と比べて、噴気や日射の影響で一部の地表面温度分布の見え方に違いがありますが、特段の変化はありませんでした。

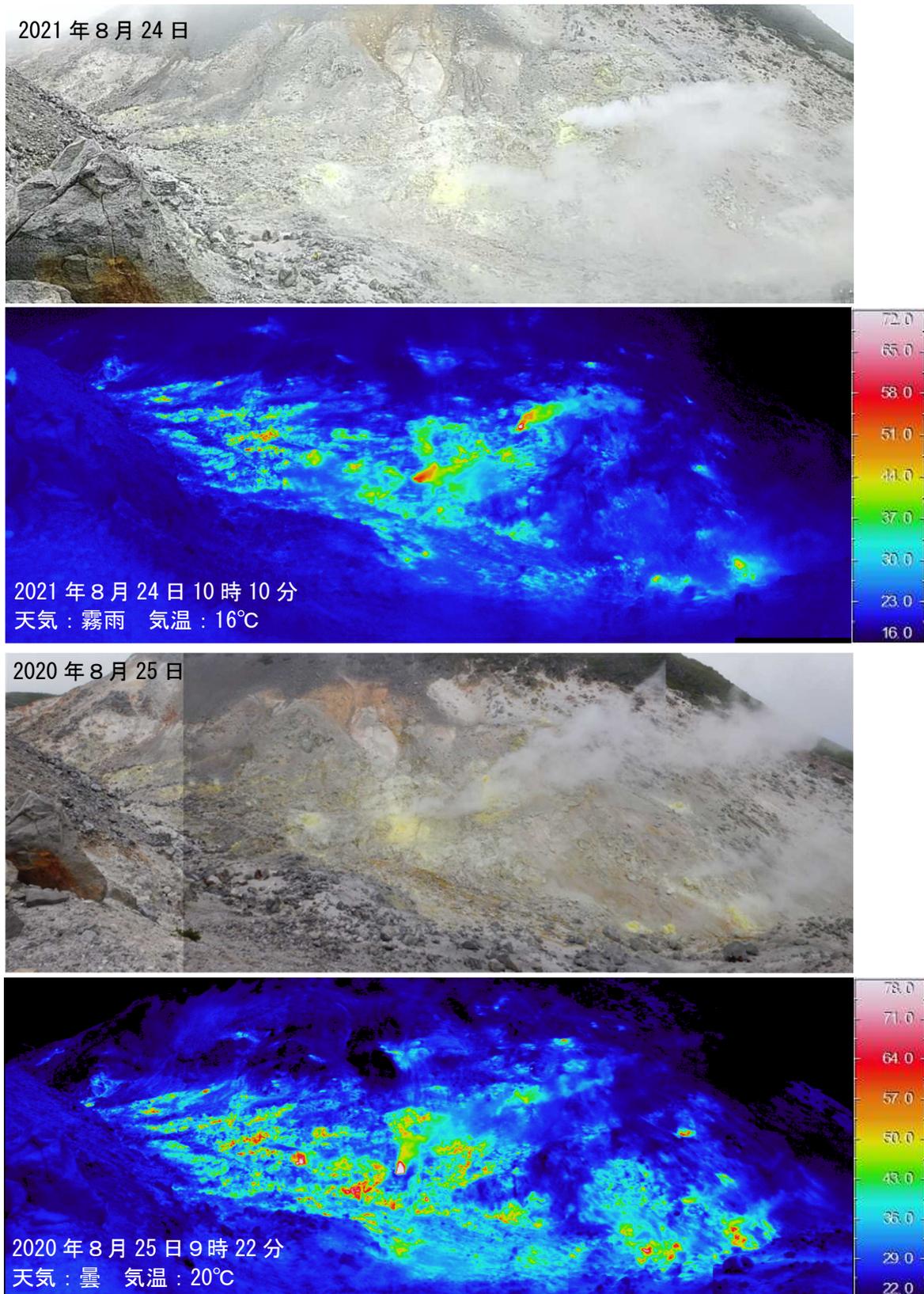


図7 アトサヌプリ 赤外熱映像装置によるF2噴気孔群の地表面温度分布
(図3の③から撮影)

- ・前回の観測(2020年8月)と比べて、噴気の影響で一部の地表面温度分布の見え方に違いがありますが、特段の変化はありませんでした。

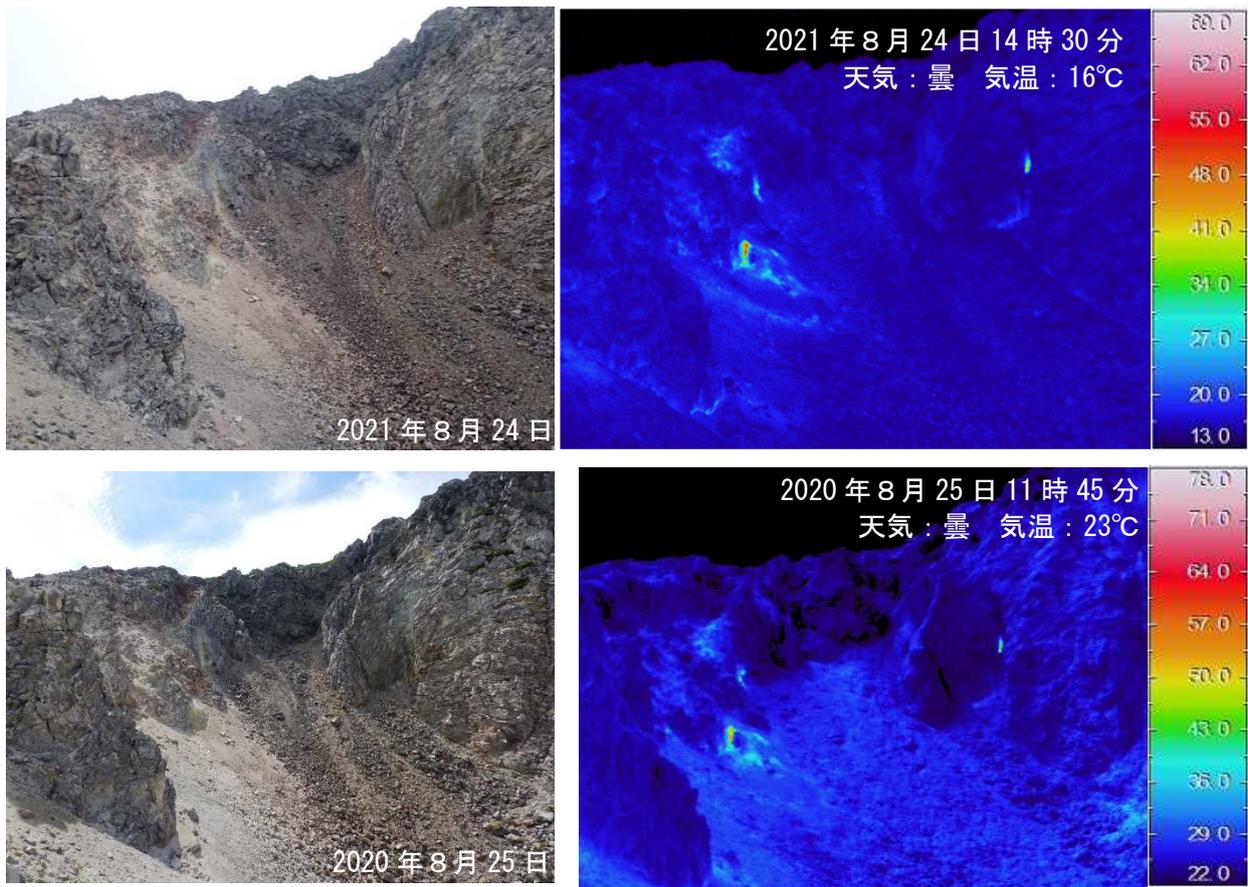
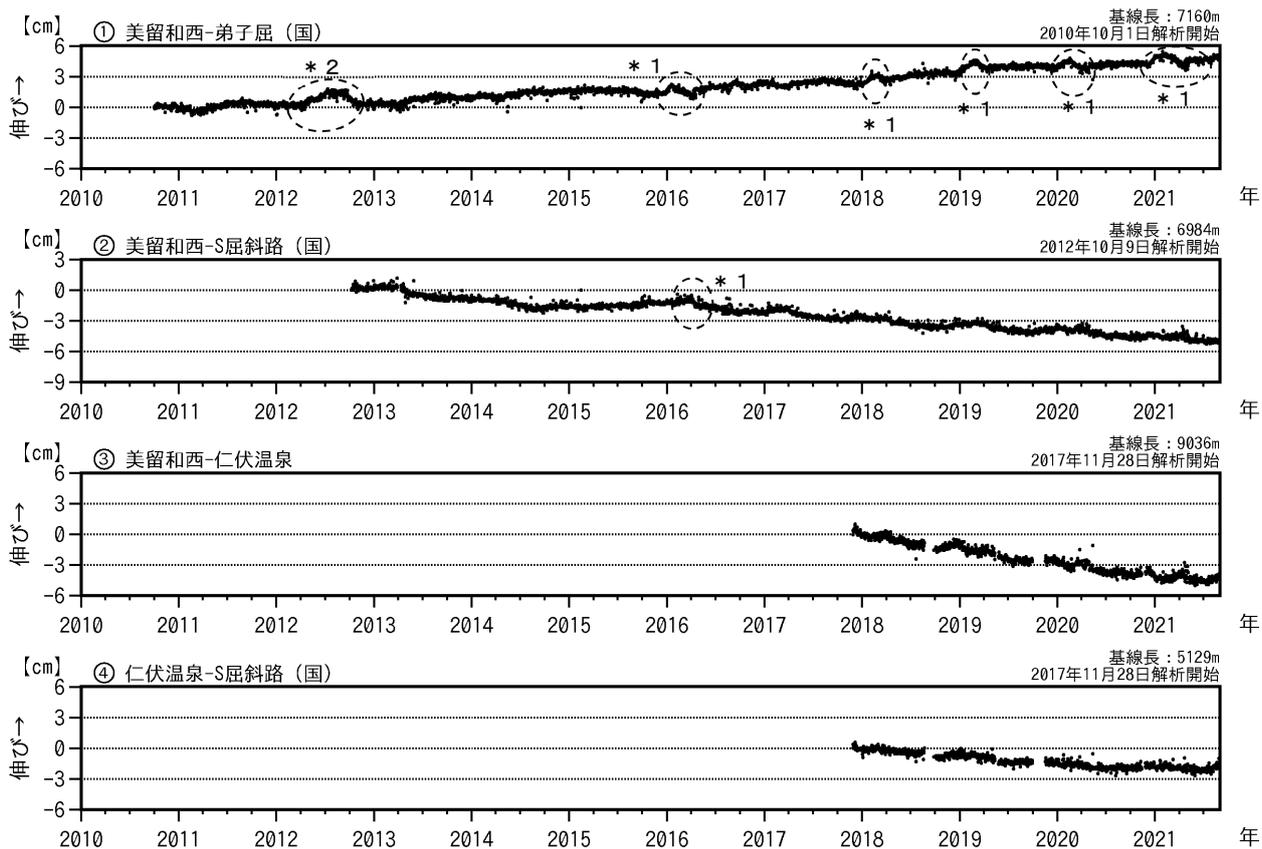


図8 アトサヌプリ 赤外熱映像装置による熊落し火口の地表面温度分布
(図3の④から撮影)

- ・ 前回の観測（2020年8月）と比べて、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。



----- アトサヌプリカルデラ
のカルデラ縁(勝井, 1958)*³

図9 アトサヌプリ GNSS連続観測による基線長変化(2010年10月~2021年8月)及び観測点配置図
 ①~②の黒破線円内の変動(*1)は、美留和西観測点の局所的な動きによるもので、火山活動によるものではないと考えられます。
 ①の黒破線円内の変動(*2)は、弟子屈(国)付近の樹木の影響及び伐採(2012年9月下旬)によるものです。
 GNSS基線の空白部分は欠測を示します。
 *3 勝井義雄(1958)阿寒・屈斜路火山群、地球科学、39巻。

・アトサヌプリカルデラを囲む基線②~④で短縮の変化が引き続き認められています。

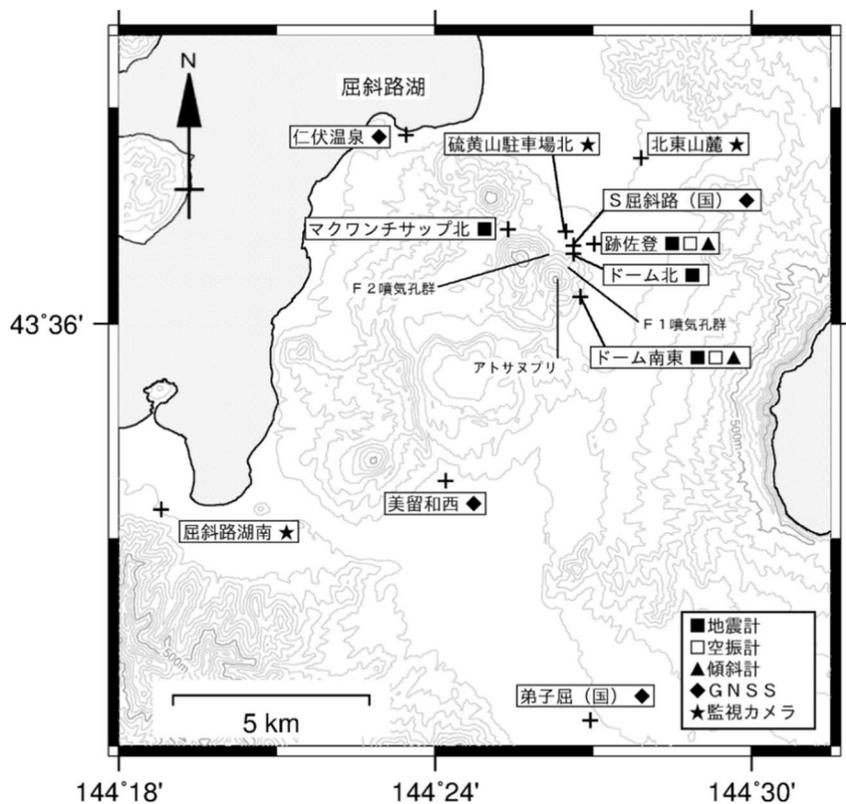


図10 アトサヌプリ 観測点配置図

＋は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院